

74

公報

昭和九年六月六日 陸軍省

軍務局長

第二課長 大島 局員

昭和九年六月六日

軍務局長

關係各廳長宛

副官

小島

山本

志岐

陸造半葉十三行詳紙 (花輪納)

官廳用無線電信試験ニ關スル件申進
 首題ノ件ニ關シ左記ノ通試験施行援助方
 依頼有之候ニ付テハ附近航海ノ艦船ハ努メ
 テ援助ヲ願ハレ度
 追テ其ノ成績ハ燈台局及通報相
 成度

記

別紙全文記入

軍務第一五八號三

海軍

(8. 12. 2. 0.)

5-30

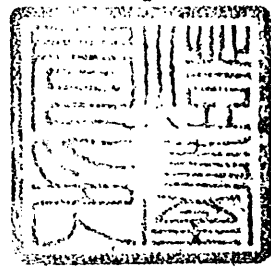
別紙

精工第一八六一號

昭和九年五月十七日

軍務部第三課

海軍省軍務局



官廳用無線電信試験ニ關スル件

當局所管北海道樺葉郡燈臺併置ノ無線方位信號所ハ實際ノ業務開始ニ先ク予充
 分試験ヲ行ヒ暖極官ノ下ニ五月中五日ヨリ無休ニテ無線機針索務及無線標識等
 等ニ準シ試験通得ヲ致談ニ付貴 局 ニ於カレテモ右試験ニ際シ他ノ個
 所全様精々便宜ヲ興ヘラル、後御取計相成度尙之カ成續御通知相煩ハシ度及御
 依頼候

追テ試験執行要項ハ別紙ノ通ニシテ標識用周波數ハ三百十一千四百イタルニ
 一九百六十八米一際設符號ハ「M O」ヲ使用發射可致候

軍務部第一五八號



一、名稱 位置 呼出符號

- (一) 名稱 襟裳岬無線方位信號所
- (二) 位置 北緯四一度五五分三〇秒
東經一四三度一四分五〇秒
- (三) 呼出符號 J L M

無線呼出符號
野島崎
鹽屋崎
金華山
尻矢崎

無線維針局業務試驗執行要項

一、名稱(位置)

無線呼出符號

野島崎 (北緯 三四度五三分五秒 東經 一三九度五三分三〇秒)

鹽屋崎 (同 三六度五九分三〇秒 一四〇秒五九分〇秒)

金華山 (同 三八度一六分二五秒 一四一度三五分一六秒)

尻矢崎 (同 四一度二五分四秒 一四一度二七分五八秒)

J L D
J L C
J L B
J L A

鯉崎
惠山岬

(北緯 三九度三分四〇秒 東經 一四二度四分三〇秒)
(北緯 一四一度四分四四秒 東經 一四一度一分一四秒)

J L E
J L F

二、發射電波ノ性質及發振周波數 (波長)

各局ニ可聽持續電波 三七五キロサイクル (八百米)

三、聽守周波數 (波長)

各局ニ可聽電波 五〇〇キロサイクル (六百米)

四、裝置方式

真空管式

五、空中線電力

各局 三五〇ソツト

六、試驗執行時間

毎日出時キリ午後十時迄 無休

七、全交信方法

無線方位測定通信規則ニ準ス

即チ左ノ如シ

△、船舶無線電信ヨリ無線維針局ニ對シ方位測定試驗ヲ依頼セントスル場合ハ先ツ五〇〇「キロサイクル」(六百

八、測定試験方法

(一) 第七項ニ依リ連絡後無線維針局ニテ測定準備完了シタル時ハ可送符號「1、1」ヲ發振スルヲ以テ船舶無線電信

ニテハ三七五「キロツイクル」ノ周波數ニテ自己ノ呼出符號ヲ其長點ヲ稍長ク（長キ程可ナリ）シテ五十秒間反復

送信セラルヘシ
而シテ無線電信ニテ電波發振ヲ開始セラル、ニ當リテハ（無線電信係ヨリ試驗ヲ始ムノ信號ヲ爲シタル時ハ直チ

ニ船位ノ測定ヲ開始シ電波發振ヲ始メテヨリ約二十秒后ノ位置ヲ探ル機船橋ト豫メ打合セ置キ）電鈴若クハ適宜

ノ方法ニテ試驗開始ノ旨船橋ヘ信號シ船橋ニテハ直チニ目測ヲ始メラル、ヲ最良ノ方法ト思料ス
船橋ニ於ケル船位測定ノ正否ハ本試驗ノ根幹ヲナスヲ以テ事情ヲ諒セラレ可及ノ正確ヲ期セラル、樣依頼ス

方位測定完了セハ無線維針局ハ「Q T D」（貴船ノ方位ハ無線維針局ヨリ、、、、、度ナリ）ノ略符號ニ引續

キ「〇〇〇」ヨリ「三五九」ニ至ル三位ノ數字ヲ以テ表ハス全局ヨリノ眞方位及測定時刻ヲ「〇〇〇」（午前〇時一

分）ヨリ「二四〇〇」（午後十二時）ニ至ル四位ノ數字ヲ以テ送信ス
船舶無線電信ニテ右ヲ受信シタル時ハ是ヲ反復送信シ維針局ニテ全反復ニ誤リナケレハ「1、1」又ハ

「1、1」ヲ送信ス
船舶ニテ目測セシ無線維針局ヨリノ方位ハ一回宛全局ヘ通知セラル、トモ試驗終了後一括通知セラル、トモ何レ

ニテモ差支ナシ
本試驗中無線維針局ヨリ通知スル方位ハ修正ヲ施サザル（測定機ノ示セシ儘ノ方位）モノナレハ多少誤差アルヲ

九、注意
無線維針局ヨリ目測シ得ル範圍内ヲ航行ス際無線維針局ヨリ要ホアル時ハ適當ノ間隔

ヲ置キ前項ノ準ニ送信セラレタシ
羅針局ニテハ無線方位ヲ測定スルト同時ニ方位目測番ニ依リ方位ヲ目測ス此場合船

側ニテハ方位ヲ目測スルヲ要セザルモ羅針局ハ相當ノ準備ヲ必要トスルヲ以テ目

測範圍内ノ方位ヲ目測スルヲ要セザルモ羅針局ハ相當ノ準備ヲ必要トスルヲ以テ目

八、測定試験方法

水) 無線針局ヲ呼出シ其呼出符號ヲ引續キ〇T E (當船ノ真方位如何)ヲ送ラレタス
 無線針局ハ是ニ對シ三七五「キロツイクル」(八百米)ニテ應答ス、無線針局ノ應答ヲ得ハ船舶無線電信ハ直チニ三七五「キロツイクル」ニ變更シ爾後相方三七五「キロツイクル」(八百米)ニテ交信スルモノトス
 B、無線針局ヨリ船舶無線電信ニ對シ方位測定試験對手方依頼セントスル場合ハ最初五〇〇「キロツイクル」(六百米)ニテ呼出シ爾後前項ニ倣フ

(一)第七項ニ依リ連絡後無線針局ニテ測定準備完了シタル時ハ可送符號「1、1」ヲ發振スルヲ以テ船舶無線電信ニテハ三七五「キロツイクル」ノ周波數ニテ自己ノ呼出符號ヲ其長點ヲ稍長ク(長キ程可ナリ)シテ五十秒間反復送信セラルヘシ

而シテ無線電信ニテ電波發振ヲ開始セラル、ニ當リテハ(無線電信係ヨリ試験ヲ始ムノ信號ヲ爲シタル時ハ直チニ船位ノ測定ヲ開始シ電波發振ヲ始メテヨリ約二十秒后ノ位置ヲ探ル様船舶橋ト豫メ打合せ置キ)電鈴若クハ適宜ノ方法ニテ試験開始ノ旨船舶橋ヘ信號シ船舶橋ニテハ直チニ目測ヲ始メラル、ヲ最良ノ方法ト思料ス

船舶ニ於ケル船位測定ノ正否ハ本試験ノ根幹ヲナスヲ以テ事情ヲ諒セラレ可及的正確ヲ期セラル、樣依頼ス
 方位測定完了セハ無線針局ハO T E (貴船ノ方位ハ無線針局ヨリ、、、、度ナリ)ノ略符號ヲ引續キ「〇〇〇」ヨリ「三五九」ニ至ル三位ノ數字ヲ以テ表ハス全局ヨリノ真方位及測定時刻ヲ「〇〇〇」(午前〇時)分「〇〇」(二四〇〇(午斤十二時)ニ至ル四位ノ數字ヲ以テ送信ス

船舶無線電信ニテ右ヲ受信シタル時ハ是ヲ反復送信シ無線針局ニテ全反復ニ誤リナケレハ「1、1」又ハ「1、2」ヲ送信ス
 船舶ニテ目測セシ無線針局ヨリノ方位ハ一回宛全局ヘ通知セラル、トモ試験終了後一括通知セラル、トモ何レニテモ差支ナシ

九、注意

本試験中無線針局ヨリ通知スル方位ハ修正ヲ施ササル(測定機ノ示セシ儘ノ方位)モノナレハ多少誤差アルヲ免レザレバ注意アリタシ



海軍省軍務局第二課

一七九

昭和九年七月十七日青森

軍務局第二課

駒

橋

艦

長

海軍省軍務局長殿

官廳用無線電信試験成績函之件通報

首題ノ件ノ本艦七月十日襟裳岬沖航行中同岬燈台併

置ノ無線方位信號所ト交信別紙通信記録ノ如キ成績ヲ得テ

(別紙添)

(終)

海軍

昭和八年七月



月日		本船時刻		通信文(測定時刻及方位等)		備考	
七一	一	〇二〇四	〇二〇五	通信文(測定時刻及方位等)	〇二〇四	〇二〇五	備考
		〇二二三	〇二二四				
		〇二二九					
		〇二三七	ナシ				
		〇三二五					
		〇三四二	〇三四三	AT〇三四三 QTEニ二五 (フラットニ付更ニケル)	二一八五		備考 〇三四三ニ付更ニケル
		〇三四四	〇三四五	AT〇三四五 QTEニ一九	二九		備考 本船照校シ終了ス
		〇四一九	〇四二〇	〇四二二ニニニリコフラットレナリ Eウ一度送ラレ度ニ分間	一		
		〇四二三	〇四二五	AT〇四三五 QTEニ三一	二三〇五		
		〇四四九	〇四五一	AT〇四五〇 QTEニ三七	三五		
		〇六四八	〇七〇〇	フラットレナ測定困難 モウスコンタム			

對岸長岬無線電信所通信記録並成績

通信文(測定時刻及方位等)

備考

備考
後感ナシ

備考
後感ナシ

備考
後感ナシ

備考
〇三四三ニ付更ニケル

備考

經過並所見

本艦七月十日午前二時禮蒙岬燈台を鑑 氣方位南一一理五二
 至リ針路北八二度西ヲ以テ津輕海峡ニ向ヒテ同岬無線方位信號
 所ト交信ヲ開始ス 前日未ノ風雨オキリ日夜ハ當地方稀ニ見ル
 好天ニシテ霧ヲク日出時ニ至ル迄襟裳岬灯光ヲ認ルヲ得リ、午前
 四時過ギ日出直後ヨリ濛氣襲来雨後津輕海峡中央ニ至ル迄一
 陸影ヲ認ルナルモ陸影發見時ニ於ケル艦位及時々々ニ得ル
 測深ヨリ推算スル成績ハ前表ノ如クニシテ應答迅速方位モ亦
 正確ニシテ今迄試験ノ如ク近距離於テハ實用上充分信頼ニ得
 行艦上便益大ナルモト思考ス

0701	0701	AT0701
1048	AT1048	QTE 244
	QTE 260	

三五〇
 三五八
 フットノ由参考迄
 大岡崎ニ方位諸求中
 参考迄ニ通報シ来ル

昭和六年七月八日

本州無線羅針局測定
無線方位ノ精度並所見

昭和九年五月

軍艦春日

0558

本記録、昭和九年四月中旬ヨリ五月上旬ニ至ル期間本艦本川第一号交務巡航ノ際各無線羅針局ニ方位測定ノ依頼シ其ノ結果ヲ綜合シタルモノニシテ昭和八年四月測定成績ト對照シ其狀況ヲ明ナラシメタリ。

主ナル研究項目下記ノ如シ

- (一) 昭和八年度測定成績トノ比較
- (二) 測定成績 実用上ノ精度 及 利用範圍
- (三) 無線羅針局利用上ノ注意

無線羅針局利用ノ一例

- 1) 昭和九年五月七日小樽ヨリ大湊ニ向ケ航行中津輕海峡ニ入ラントスル際(2330頃ヨリ濃霧トナリ霧中航行ヲ始ム)0100ヨリ龍飛福山西凡音局ヲ呼出ス。前者ハ約45^m後後者ハ約1^h後ニ出テ0220兩局ヨリ測定方位ノ通報ヲ受ク之ニ要セシ時間約1^h—15^mナリ

成績次ノ如シ

羅針名	時刻	測定方位	真方位	距離
龍飛	0214	294	285	1.0
福山	0215	216	218	5'

0215兩名測定方位 = コル艦位ハ実測艦位
 36° 1.0 = 当り近距離ナラバ実用上支障
 度ト認ム

2) 昭和九年五月九日本州北東岸嶺海中霧霧
 視界 2.0ヲ出テホリニ際美崎金華山 凡(4)名
 測定方位ト水深ヲ利用シ美崎ニト、74° 10.5
 及金華山ニト、109° 8.1 = テ夫々艦位ヲ行
 度針予定通り大吠岬ニ達セリ

0560

一、無線方位測定成績

局名	時刻	距離	真方位	測定方位	誤差	総値平均	平均誤差	昭和辛酉測定		諸事
								絶対値平均	平均誤差	
野島	4月18日 1210	20.0	283	278	-5	6.17	-6.17	+10	+10	電波布良附近山ヲ越 過ス
	1216	20.4	281	275	-6					
	1218	20.6	280.5	273	-7.5					
	1232	22.0	276	270	-6					
	1234	22.0	276	267	-9					
	1244	23.2	274	268	-6					
	1254	25.0	272.5	268	-4.5					
	1312	26.3	269	267	-2					
	1339	29.0	266	270	+4					
	1408	31.8	261	260	-1					
	5月10日 0435	36.5	66	65	-1					
	0447	35.5	67	66	-1					
	0507	32.5	70	68	-2					
	0516	32	71	69	-2					
0532	29	73	70	-3						
山崎	0540	27.7	73.5	72	-1.5					通測ニ精進良特ニ 實用上充分価値有ル 認ム
	0552	26.4	74	75	+1					
	0602	24.3	74.5	77	+2.5					
	0613	22.8	75	78	+3					
	0642	18.7	80	79	-1					
天 島	4月18日 1210	11.5	35	34	-1	1.72	0.84			4月18日 天気0 風向S~S.W 風速5~7.5m
	1232	9.5	22	23	+1					
	1244	18.4	16.5	19	+2.5					
	1254	7.8	20	9	+1					
	1312	6.0	352	354	+2					
	1333	5.9	329	329	0					
	1339	5.5	320	319	-1					
	1408	6.0	284	287	+3					
	5月10日 0507	5.8	73	70	-3					
	0516	57.5	73.5	76	+2.5					
	0531	55	74.5	76	+1.5					
	0541	53.8	74.5	76	+1.5					
	0550	52.4	75.0	77	+2					

0561

	0602	50.6	75.0	77	+2					
	0613	49.2	75.5	77	+1.5					
	0642	44.3	77.0	75	-2					
龍 飛 崎	5月3日 0828	40.5	229.5	229	-0.5	4.13	-4.13	6.7	-2.7	天氣b風向SW風速4~6 昭和入年度成績北は消 良好ナルモ依然トシテ 定ナル減アリ
	0829	40.5	229.5	228	-1.5					
	0835	39.2	231.0	227	-4.0					
	0851	38.0	234.5	228	-6.5					
	0922	34.8	243.5	247	-3.5					
	0943	33.3	250.0	240	-10.0					
	1005	32.0	257.0	253	-4.0					
	1022	31.7	263.0	260	-3.0					
福 山	5月3日 0835	39.7	209	205	-3.0	1.92	-1.92			天氣b風向SW風速4~6 成績概テ良好ニシテ津輕 海峡西口ノ入込ニ際シ 利用ノ價値大ナルヲ認ム
	0851	37.3	211	220	-1.0					
	0923	32.0	217.5	222	-4.5					
	0943	29.0	222	222	0					
	1005	26.0	228	227	-1.0					
	1022	24.2	235	233	-2.0					
局名	時刻	距離	真方位	測方位	誤差	総値 平均	平均誤差	昭和八年四月測定 総値 平均	平均誤差	記 事
大 間 崎	5月8日 1101	3.9	216	280	+4	2.5	+0.83	1.6	-0.8	0 風向NNE乃至S風速2.0 成績前年度通り良好ナル ヲ認ム
	1128	4.0	10	1.1	+1					
	1140	4.2	46.5	44	-2.5					
志 山 岬	5月8日 1221	15.0	176	183	+7	3.44	+3.44	6.5	-6.5	0 風向NE風速2.5 昭和入年度成績ニ因リ 平均成績判 同年度於 テ波速北岬ニ越江カ 成績者テ不良ニシテ最大33 平均18ノ誤差ナル本年 津輕海峡東口ニテ航行面 テ重ナル波速テ良結果 得テリ
	1233	15.6	178	179	+1					
	1244	16.5	177	178	+7					
	1253	17.3	165	171	+6					
	1304	18.2	158	163	+5					
	1317	19.8	152	153	+1					
	1338	22.7	144.5	145	+0.5					
	1416	30.0	141	141	0					
尻 岬	5月8日 1219	18.0	299	298	-1	2.75	-1.75	6.54	+6	天氣0風向NE風速2.5 昭和入年度北ニ成績良好 リテ距離18ノシテ 昨年度成績依リ10以 内ノ頗ル良キニ20以上ト 10~14ノ誤差アリ莫ニ遠 距離ニ於テ成績ヲ調査ス 要アリト認ム
	1231	14.2	301	299	-2					
	1242	12.4	304	301	-3					
	1252	10.6	306	304	-2					
	1303	8.6	316	319	+3					
	1312	7.1	324	325	+1					

0562

崎	1338	4.6	9	0	-9						
	1409	6.0	78	77	-1						
崎	5月9日 0012	11.3	53.5	60	+6.5						天気bc風向S風速6~11.5 成績前年度通り良好+1.1 認め
	0027	10.5	70.5	66	-4.5	2.5	+0.1	2.0	-1.4		
	0041	9.6	83.0	83	0						
崎	0050	8.1	95.5	94	-1.5						
	0059	9.2	110.0	110	0						
金 華 山	5月9日 0527	30.0	33.0	34	+1.0						天気bc風向SW乃至SSW 風速5~11.0 5月9日日出0425 昭和年度比成績良好 距離遠近関係 精度良好 認め
	0536	27.6	38.5	34	-4.5						
	0550	25.6	35.5	36	+0.5						
	0606	23.0	38.5	38	-0.5						
	0621	20.0	40.5	38	-2.5						
	0635	18.0	44.0	41	+3.0						
	0649	15.5	49.0	51	+2.0						
	0713	12.2	59.0	61	+2.0						
	0732	9.6	75.0	77	+2.0						
	0743	8.6	86.0	86	0	2.07	-1.11	3.5	-0.27		
	0812	8.7	124.5	123	-1.5						
局名	時刻	距離	真位	測位	誤差	終値 平均	初値	昭和年度比較 終値平均	誤差	記	事
金 華 山	0845	11.6	150.0	149	-1.0						
	0924	16.9	165.5	165	-0.5						
	2950	21.0	171.5	171	-0.5						
	1005	23.0	173.5	171	-2.5						
	1020	25.4	176.0	173	-3.0						
	1039	28.3	178.0	175	-3.0						
	1050	30.5	179.0	175	-4.0						
	1123	35.5	181.5	178	-3.5						
	1137	37.5	182.0	178	-4.0						
	1153	40.5	183.0	179	-4.0						
	1211	48.0	185.0	185	0						
大	5月9日 1912	49.5	21.0	24	+3						天気bc風向SW風速16m 5月9日日出1831 金華同様成績良好シテ 30以内テ精度良好 +1.1認め
	1936	45.5	22.0	27	+5						
	1946	44.5	22.5	28	+5.5						
	2019	39.0	24.0	28	+4.0						
	2050	34.0	26.0	30	+4.0						

吠	2119	30.5	28	31	+3.0	2.19	+1.88			
	2148	28.0	31	31	0					
	2155	24.5	32	31	-1.0					
	2217	21.0	36	35	-1.0					
山崎	2246	18.5	43	44	+1.0					
	2316	15.0	56	56	0					
	2346	11.0	75	76	+1.0					
	5月10日 0017	9.2	103	103	0					

終

0564

(二) 無線羅針局及標識局呼出状況及費消時

月日	局名	呼出状況	費消時
4-18	野島崎	呼出一回ニテ直クニ應答アリ	1.5分
〃	大島	二回呼出後2.2分ニテ應答アリ本艦 野島崎ト交信中ナリシ爲應セザリシモノ ノ如シ	2.2分
		1508ヨリ十数回指呼スルモ應 ^答 ナク 1600ニ至リ先方ヨリ呼出シ来レリ ^ト 送信機ノ都合悪ク ^シ モノノ如シ	
4-19	潮岬	1055ヨリ三回呼出ノ後1101應答アリ他ト交 信中ノ爲遅レタルモノノ如シ	6分
4-22	角島	1907ヨリ六回呼出ノ結果1927應答アリ夫 迄他局ト交信中ナリキ	20分
5-3	福山	0800ヨリ五回呼出ノ結果0820應答アリ	15分
〃	龍飛崎	0800ヨリ呼出ヲ行フモ應答ナク福山局ニ 注意ヲ依頼ノ結果0830漸ク應答アリ電 波稍不正確ナリ	25分
		1015ヨリ1040迄数回指呼スルモ應答ナ シ(距離大ナリ)	
〃	福山	1040ヨリ1140迄呼出スルモ應答ナシ	

0565

5—3	龍飛崎	1104 311140迄 呼出スモ 應答ナシ	
5—6	福山	1940 3112045迄 十数回 呼出スモ 應答	
		ナシ 濃霧、為附近船舶及陸上各間 =500 K.C = 於ケル空界甚ガ 混乱ナリ	
、	龍飛崎	全 上	
、	福山	2345 3110010迄 呼出スモ 應答ナシ	
、	龍飛崎	全 上	
5—7	福山	0020 311三回 呼出 = テ 0040 應答アリ 濃	20分
		霧中 = テ 多数船舶 連絡中 通信不如意 1点大ナリキ 以後 連絡確実	
、	龍飛崎	0020 311五回 呼出 = テ 0050 應答アリ	30分
		濃霧中 = テ 多数船舶 連絡中 通信不如意 1点大ナリキ 以後 連絡確実	
5 8	大間崎	1140 呼出 一回 = テ 應答アリ	30分
、	瓦矢崎	1148 311四回 呼出 = テ 應答アリ	15分
、	惠山崎	1148 311六回 呼出 = テ 應答アリ	18分
5 9	麩崎	0000 311二回 呼出 = テ 應答アリ	35分
、	、	0450 3110518迄 七回 呼出 = テ 應答アリ	28分
、	金華山	0522 311一回 呼出 = テ 應答アリ	3分
、	塩原崎	0820 311三回 呼出 = テ 0845 應答アリ	25分
、	犬吠崎	1825 3111817迄 四回 呼出 = テ 應答アリ	32分

0566

5	10	野島崎	0.420 一回呼出ニテ應答アリ	20秒
6		大島	0.440 野島崎送信機先方利指呼洩リ然レ依頼洩リ	

(三) 所見

(イ) 一般ニ昭和八年度測定成績ニ比シ精度向上ニ誤差一度乃至三度ノ減少ヲ示ス其絶對値平均成績次ノ如シ(七局平均)

昭和八年度 四.三度

昭和九年度 三.〇度

各局成績ニ関シテハ記事欄記載ノ如シ

(ロ) 今回ノ実験ハ晝夜各種ノ時機 晴曇霧中荒天半穩等種々ノ海状ニ於テ施行セリ殊ニ霧中実用ニ供シ測定方位ト測深ニヨリ船位ヲ求メツ、瓦矢 犬吠 間ヲ正確安全ニ航行スルコトヲ得タリ

(ハ) 実験距離範圍次ノ如シ

昭和八年度 最小 大間崎沖ニ理 最大 大間崎 七〇理

昭和九年度 最小 大間崎沖四理 最大 大島東方 五八理

各局晝間有効距離ハ三〇〇KMナルヲ以テ沖合ヨリ近接ノ際更ニ有効利用範囲ノ実験ヲ要スルモノト認ム

(二) 測定成績精度及利用上留意ヲ要スル点次ノ如シ

(a) 電波陸地ヲ超過スル時ハ測定誤差ヲ増大シ其量概テ実用ニ供シ難キヲ以テ注意ヲ要ス

(b) 日出没時ハ誤差ヲ伴フヲ例トスト稱セラル、モ今回ハ適確ナル実験値ヲ得ルニ至ラザリキ今次日出没前後四回ノ成績ヲ通覽スルニ誤差ハ日出没時ニ大ナラズシテ日出没後(約一時間内外ノ時)大ナルが如シ將來ノ研究ヲ要スルモノト認ム

(c) 各局共測定開始後回ヲ重スルニ從ヒ精度良好トナルが如シ從テ僅ク一ニ回ノ測定ヲ過信スルコトナク少クトモ四五回連測ヲ行フヲ可トス

前項所述ノ日出没後比較的大ナル誤差量ヲ得タルハ或ヒハ測定開始直後ナリシヤモ知レズ

(d) 呼出状況及費消時ニ関シテハ第二項記

載ノ如ク長短種々ナルモ一般ニ目的ヲ達スル
迄ニハ通例約三十分ヲ要スルモノト思ハサル可
ラス

(e) 塩屋崎ハ装置アルモ目下業務ヲ執ラズトイフ

(ホ) 通信実施ニ関シ下記諸項ハ研究改善ハ要アル
ヲ認ム

(a) 指呼ニ對シ速ニ應答スルヲ要ス他局トノ業
務交信中ハ事務信使用ニヨリ指呼局ノ不用電
波ノ發射ヲ避ケシムルヲ要ス

(b) 津輕海峽附近ノ濃霧吹雪等ノ際五〇〇KC
ノ使用相當輻輳スルヲ以テ羅針業務用電
波ハ全部特定スルヲ可ト認ム

(c) 各局共電波ヲ齎正ナラシムルヲ要ス

(d) 各局共報時電報ニヨリ時刻ノ整合ニ留意ス
ルヲ要ス

時刻ヲ本艦ニ照會シ來レルモノアリ

之ヲ要スルニ今回ノ実験ノ結果ニヨレバーニ局

ヲ除キ概テ距離三〇哩乃至四〇哩ヨリ實用ニ

供シ差支ナキ精度ヲ得ラレツ、アルモ尚誤差ヲ減

少シメ得入ク亦隨時適時ニ之ヲ利用セントセ
バ一層船舶ト密接ナル連絡ヲ保テ天候如何
ニ不拘精度調査実験ヲ勵行スルヲ要スルモノト
認ム尚羅針碇側ニ於テハ更ニ電波整合誤差
曲線ノ整備當直法等ニ関シ研究セラルレバ本
邦沿岸羅針碇ノ聲價ハ期セスシテ擧リ一級船
船ヲ釋查スルモノ一層大ナルモノアルヲ確信ス

(終)

0570

0571

通信

軍務局第二課

号外

昭和九年三月二十三日

春日副長

陸軍事務局員 殿

左一伸 送付

一本州無線羅針方位無線方位精査並改見 一部

近々通信者無線方位無線方位精査並改見

取

海軍

昭和八年七月六日納

軍務局 9.6.26 第二課

添付モノアリ

燈臺局 第 十五 號

燈監甲第一六八九號

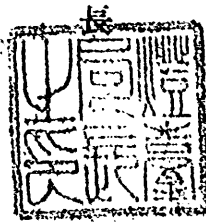
昭和九年七月十日

軍務局第二課



燈臺局

海軍省軍務局長 殿



無線方位測定試験ノ件

當局所管無線羅針局ノ方位測定試験ニ關スル春日艦長ノ報告ニ對シ別紙寫ノ通全艦長宛回答致候ニ付御參考ニ供シ候

軍務局
9.7.12
第二課

横須賀軍港測位部

燈臺局 第十五號

燈臺甲第一六八九號

同 答

昭和九年七月十日

燈臺局長

春日艦長 殿

無線方位測定試験ノ件

對春日第二八號ノ三(五月二十三日附)

本件ニ關シ有益ナル參考資料御送付相成候致深ク謝上候右ニ對スル當方ノ綜合意見ハ大体左記ノ通ニ有之候條御諒知ノ上今後共一層ノ御援助相煩度候

記

一、測定方位ノ誤差ニ就テ

(イ) 持續電波ハ他ノ電波ニ比シ測定比較的困難ナリ而モ貴艦(他ノ一般艦船モ同

様)ノ發射電波ハ音色時ニ變化スルコトアリ

(ロ) 野島埼ハ測定方位殆ント全部全範圍外ナリシ爲誤差多カリキ(野島埼方位測

定範圍内ヲ航行セラレシ際貴艦ノ送信機ハ故障ノ趣ナリキ

(ハ) 龍飛塔、大吹塔兩所ハ試驗中ニ付誤差修正表未タ完備セサル爲誤差比較的大ナルヘシ

(ニ) 相互ノ時計ノ相違ハ一分間ト雖精度ニ著シキ差違ヲ生スル場合アリ貴艦ノ記録ト羅針局ノ記録ト對照スルニ時刻ノ相違セルモノアリ誤差ヲ生セシ原因ノ一ナラン時刻ヲ貴艦ニ照合シタル羅針局アルハ右ノ誤差無カラシメンカ爲ナルヘシ

ニ、通信連絡ニ長時間ヲ要セシ理由

(イ) 持續電波ハ同調鋭敏ナル上貴艦使用ノ全電波ハ波長少シク短カク且電力弱少ナリシ爲附近海岸局ノ通信ニ妨害セラレ受信機ノ調整普通ニテハ遵守困難ナリシモノナリ

(ロ) 貴艦ノ呼出ニ對シテハ各局共再三規定ノ波長ニテ應答スルモ受信機ニ感セサルモノカ貴艦ニ於テ聴取セラレザリシ場合多ク從テ連絡ニ長時間ヲ要セシモノナリ

(ハ) 五月六日福山及龍飛崎共連絡不能ナリシハ當日濃霧ニテ測定通信輻射シタルト貴艦ノ使用電波(イ)ニ示セシ通ナリシ爲他ノ波長ニ受信機ヲ調整シ置ケハ貴艦ノ呼出ハ全然感セザリシニ依ル

ニ通信ニ關スル希望

(イ) 通信ヲ敏捷ニ行ハレ度キコト

一般ニ對軍艦通信ハ當方ノ送信ニ對スル受信證送來ユヘ二分間ヲ要スル現狀ナリ當方ノ通信了解セラレナハ直ニ懸信セラレンコトヲ望ム

(ロ) 無線通信用略語ヲ使用セラレ度キコト

軍艦ハ殆ント普通辭ヲ使用セラル、爲他人ノ通信ニ差支ヲ生スル場合アリ殊ニ濃霧中等通信輻射スル際支障多シ